

【給食協会賞】コロナ禍からの給食

三河安城小学校 里 光将

僕たちが入学した時は、新型コロナウイルスが流行し始めた時期で、給食を食べる時は、しゃべりながら食えることすらも禁止されていました。幼稚園の頃は仲の良い友達と楽しい話をしながら、笑いながら楽しく給食を食べられていたので、小学校の給食の時間もきっと楽しいのだろうなと入学する前から楽しみにしていました。しかし、入学してみると想像していた給食の時間とはまったく違いました。幼稚園の頃は毎日楽しみだった給食の時間がまったく楽しみではありませんでした。

そして、友達と一緒に楽しく食べられない給食は、いつもよりあまり美味しく感じませんでした。なので早くコロナが終わって、みんなで楽しく美味しく給食が食べられる日が早く来てほしいなとずっと思っていました。

でも、そんな楽しくない給食の時間でも、ビンバやカレーなどの給食の人気メニューが出る日は給食の時間を嬉しく思っていました。なぜなら、ビンバやカレーなどの人気メニューの出る日はみんなが「美味しい」という同じ気持ちで食べていたため、みんなと一緒に給食を食べているという気持ちになっていつもの給食より美味しく感じました。

そして、そんなふうに友達と一緒に給食を食べられないまま四年ほど経ちました。五年生の一学期のある日、トイレに行く途中にふととなりのクラスを見ると、給食の準備をしていて、近くの席の人同士

で机をくっつけていました。それまで机をはなしてだまって食べるというのを四年も続けてきていたので、友達と楽しく給食を食べることはもうできないのだと思っていたので、また幼稚園の時と同じように、みんなで話しながら、笑いながら楽しく給食を食べられると考えるととても嬉しかったです。そして、小学校での給食で初めて机をくっつけて友達と一緒に食べた時、すごく楽しくて、すごく美味しく感じました。

そして今までは苦手な献立の給食は、食べるのがとても大変でした。でも、みんなと一緒に食べると、苦手な給食も前より少し食べられるようになっていました。そして、友達と楽しく給食を食べられることの喜びと大切さを改めて感じました。今は友達と話しながら、笑いながら、とても楽しく給食を食べることができているので、前よりも給食の時間がずっと楽しみになり、いつもたくさん笑って友達との思い出を作ることができています。

そして、それは、毎日美味しい給食を作ってくださっている方や、僕たちの学校生活がより楽しくなるように考えてくださっている先生たちのおかげです。僕も今年で小学校を卒業します。毎回の給食の時間を大切に、感謝の気持ちを忘れずに、楽しく美味しく給食を食べていたいなと思いました。